

Vol.207 中高生の「LGBTQ」理解

近年、LGBTQ(※)の生徒への配慮や、生徒の多様性・個性を尊重するという意識が高まり、女子スラックスの採用、ジェンダーレス制服として男女兼用のブレザーの採用が急速に進んでいます。このように性別に関係なく着ることのできる制服を導入する学校が増えている中、生徒自身の「LGBTQ」への理解や関わりはどのような状態なのでしょう？今回は、全国の中学・高校生1,400人を対象に、「LGBTQ」という言葉の認知度や「LGBTQ」の生徒の存在、「LGBTQ」の友人から、カミングアウト・相談を受けた経験の有無について調査しました。

※「LGBTQ」とは、レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)、クエスチョニング(Q)の性的少数派の中で代表的な5つの頭文字を取った総称です。



調査概要

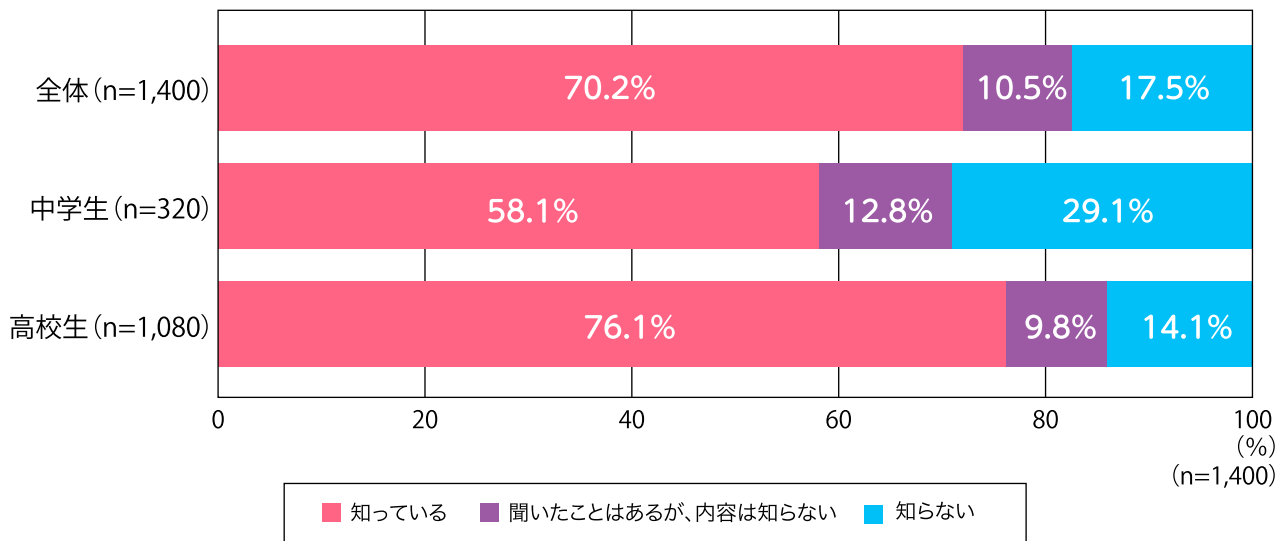
調査対象：全国の中学・高校生 1,400人

調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2023年2月

Q1. 「LGBTQ」という言葉の認知度

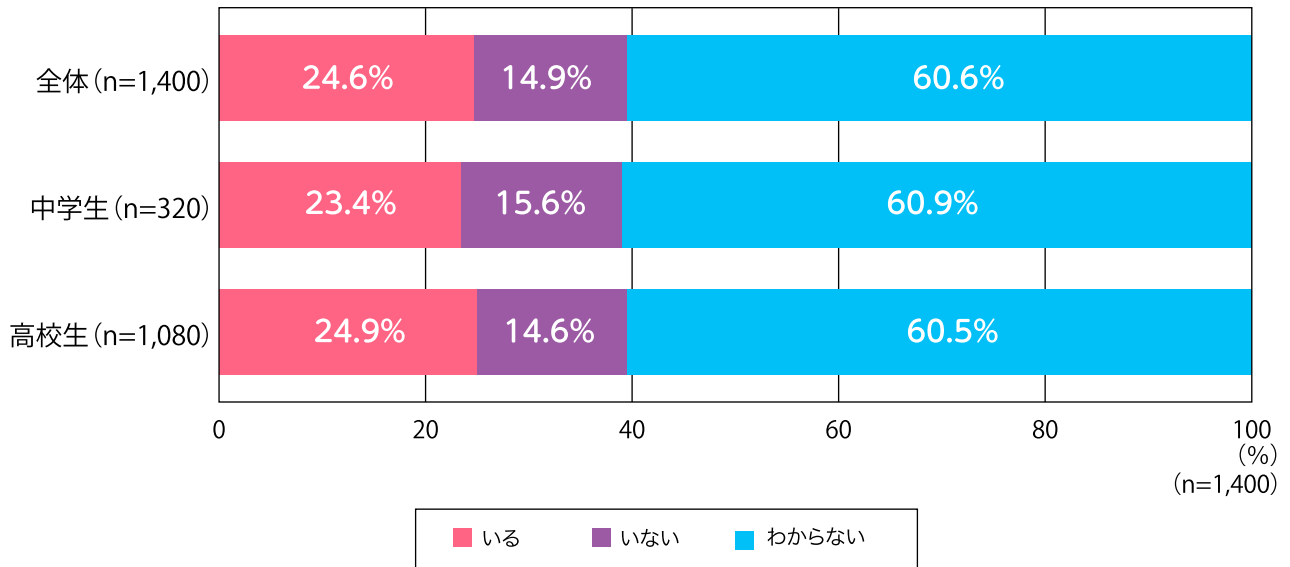
中学・高校生の「LGBTQ」という言葉の認識は、「知っている」(全体72.0%、中学生58.1%、高校生76.1%)という状況で、高校生は中学生に比べて知っているという回答が20ポイント近く高いという結果でした。さらに、高校生は「知っている」(76.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」(9.8%)をあわせると8割以上が「LGBTQ」という言葉を知っていると回答しています。一方、中学生は「全く知らない」(29.1%)が約3割であり、「LGBTQ」という言葉の認識は中学生と高校生で差があります。



【図1】あなたは、「LGBTQ」という言葉を知っていますか。(単数回答)

Q2. 「LGBTQ」の生徒の存在

「LGBTQ」の生徒の存在については、自身が通う学校に「LGBTQ」の生徒は「いる」(全体24.6%、中学生23.4%、高校生24.9%)という状況で、4人に1人の生徒が「LGBTQ」の生徒の存在を認識していると回答しています。しかし、「わからない」(全体60.6%、中学生60.9%、高校生60.5%)という回答は約6割を占め、中学・高校生ともに「LGBTQ」の生徒の存在は認識していないという状況のようです。

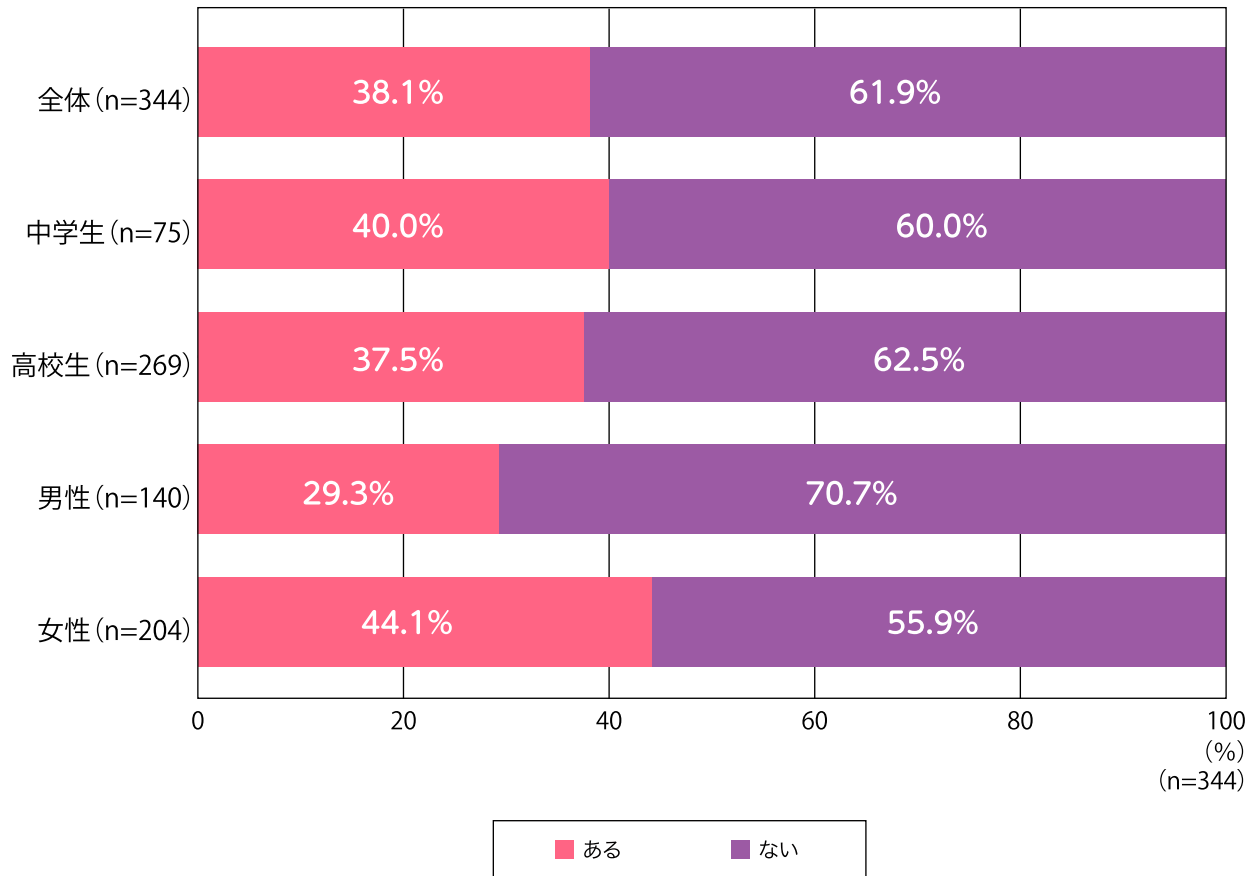


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。


【図2】 あなたが通う学校には、「LGBTQ」の生徒はいますか。(単数回答)

Q 3. 「LGBTQ」の友人から、カミングアウト・相談を受けた経験の有無

自身が通う学校で「LGBTQ」生徒の存在を認識していると回答した中学・高校生が、「LGBTQ」の友人からのカミングアウトや相談を受けた経験については、「ある」(全体38.1%、中学生40.0%、高校生37.5%)という回答が約4割で、中学・高校生による差はほとんどない状況でした。回答生徒の性別で見ると、女性は「ある」(44.1%)、男性は「ある」(29.3%)という結果で、女性は男性に比べて「LGBTQ」の友人から、カミングアウトや相談を受けた経験が多いようです。



【図3】 あなたは、「LGBTQ」の友人から、カミングアウトや相談を受けたことはありますか。(単数回答)

 まとめ

文部科学省の「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」の通知から数年が経ち、学校では服装や髪型規定の改定、トイレ・更衣室などの配慮に加えて、教職員研修や、生徒・保護者を対象にした有識者による講演会やワークショップの実施など、LGBTQの理解を深めるための取り組みが行われています。

今回、全国の中学・高校生1,400人を対象に、「LGBTQ」という言葉の認知度を調べたところ、中学・高校生の「LGBTQ」という言葉の認識は、「知っている」(全体72.0%、中学生58.1%、高校生76.1%)という状況で、高校生は中学生に比べて言葉を知っているという回答が多いという結果でした。自身が通う学校での「LGBTQ」の生徒の存在については、中学・高校生ともに、4人に1人の生徒が「LGBTQ」の生徒の存在を認識していると回答しています。さらに、「LGBTQ」の友人からのカミングアウトや相談を受けた経験については、「ある」(全体38.1%、中学生40.0%、高校生37.5%)という回答が約4割で、中学・高校生での差はほとんどない状況でした。学校生活において、生徒自身がLGBTQであることをカミングアウトや相談をするのは未だ難しい状況のようです。

ダイバーシティ&インクルージョンの考えのもと、性別、年齢、国籍、人種、体型、宗教、価値観、障がいの有無など、多様性を尊重し、すべての子どもの個々の違いを包含する社会づくりが進んでいます。多感な時期の子どもたちが、自分らしく学校生活を送ることのできる環境づくりが求められています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>